

新役員としての抱負

グループわ 充実発展に全力



理事長
納利春
(生・7期)

グループわの皆様5月17日の総会で、ご承認頂いた納(おさめ)でございます。赤司さんの理事長を引継ぐには私、いささかの力不足を感じております。

しかし、同時に皆様のご承認をいただいた優秀なスタッフの方々の後押しを得て、理事長をまっとう致します。

またグループわは会員の皆様のグループわです。皆様共々、グループわを更に充実発展させ、立派なものにしていきたく思っております。グループわも昨年、NPO(特定非営利活動法人)法人格を取得、こうべ環境未来館の運営も神戸市から受託し、また皆様共々の努力で、財政の危機も脱したと思われます。グループわもこれからといったところです。よろしくお願い致します。

知恵・経験を活す



副理事長
井上 堅
(福・8期)

シルバーカレッジで培った知識や技能を活かして「できるものが、できることを」をモットーに、社会還元の間を求めて、グループわの活動に加わって1年余り。その間、諸先輩方にただついていくだけの活動だったと反省しています。

国際化・高齢少子化・個別化の社会の中にあって、わの活動は地域に目を向け、地域と連携し活動する組織として、その重要性がましています。

わの発展のために、会員の皆さんの豊かな知恵や経験、技能を十分に活かせる場を拓げるべく努力したいと思ひます。気負わず、気配りの出来る存在、縁の下の支えとして頑張りたく思ひています。

とにかく頑張ります



副理事長
三宅 慶志
(国・8期)

昨年に引き続いてグループわ本部事務局の職務に携わることとなりました。ことしは副理事長という要務を頂戴しました。

昨年はわの諸先輩方の足手纏いにならないように後に附いて行くのでよかったかと思ひますが、ことしはそういう訳にもいかず、果たして要務に応え得るか懸念しているところです。とにかく頑張ります。叱咤ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

役の重大さを実感



理事
郷肥三
(福・9期)

このたびの総会で新しく理事に承認されまして、役の重さを実感しつつあり

2年目の重要な年



事務局長
小林 将悟
(生・8期)

ます。先輩諸氏の方々が、平成9年7月22日グループ「わ」を設立されて、本年は8周年に入りました。平成19年7月には10周年を迎える時期に囚らずも世話をさせていただけることを喜んでます。小生はかねてより残りの人生のうちで、社会の何かの役に立ちたいと考えていました。残りの人生とはいえ心は青春のままです。

会員の皆様には、無理なお願いをすることがいろいろあるかと思ひますが、ご協力を得ながら役目を遂行したいと考えております。書面を借りましてよろしくお願ひします。

グループわ事務局の業務を担当し、早や1年余りが過ぎました。特に今年度は「NPO法人」として重要な第2年目であることを銘記しなければなりません。大切なことはグループわ会員の皆さんの活動が意義深いものとなるよう、私達の視点を持ち行動することであると思ひます。ことしもご指導、ご協力を宜しくお願いします。

より充実した活動を



理事
中沢 保夫
(音・9期)

カレッジ在学中、地域活動の一環として近くの小学校で、算数の授業補助をはじめた。輝くような目で懸命に取り組む子どもたち、めきめきと計算力も付いて来ているようです。私は何ものにも代えがたい大きな喜びを感じました。

これがきっかけで、カレッジ事務局の方々、赤司前理事長の勤めで、5月からグループわ理事として「学習支援活動」を担当することになりました。900人を越える会員同士がお互いコミュニケーションに努め、より充実した活動を続けて行きたいものです。その中で心と心が通い合い、生き甲斐を感じ、喜びをわかち合えたら大変うれしいことだと思ひます。会員皆様方のご協力よろしくお願ひします。

何か役に立てれば



事務局次長
高橋 孝男
(国・9期)

KSCの卒業までまだ少しという頃、卒業後わでお手伝いして貰えまいかとの話に、できる日にできることがあればとお答えしていたところ、その担当を知らされびっくりしている次第です。しかも全くわのことを知らず、入会後ホームページや活動紹介を見たり、事務所で先輩に話を聞くにつけ多くの部員の方々が、多くの色々な活動をされていることに驚くと同時に、無知であったことを恥じ入るばかりです。また卒業と同時に、他にもボランティアを始めることになっていましたので、時間の制約もあり、活動の現場に赴く機会が少なく、皆様の苦勞を身を持って体験できないくらいがあるかと存じますが、事務局での役割を自覚し、少しでもお役に立つよう頑張る所存ですので何とぞ皆様(次頁に続く)